

# 「児童・親子の防災教室」結果報告と今後の方針案

2014年7月21日

中部本部災害対策委員会

理科支援委員会

吉田建彦

1. 日時：2014年6月30日  
場所：浜松科学館
2. 結果報告



出席者：児童11人、保護者・大人9人、講師4人

講師：前田武光、加藤信夫、仁科憲、吉田建彦

費用：約47,000円 浜松RAIN房（理科支援ネットワーク：実態は静大）負担

反応：講師の一方的説明よりは対話型を心がけ、また児童が直接実験できたり、DVDによる東北大震災の地震や津波の鑑賞はリアルであり、アンケートでは好評であった。また技術士会小冊子による防災・減災知識やDIGは理解されやすい絵入りの説明が良かったようである。

### 3. 問題点

- ① 72人の集客可能であったが、各種PR（チラシ配布、市役所から学校への連絡、地域新聞での報道など）にもかかわらず、出席者は20人と少なく、その半分は個人的伝手で来場要請した人たちである。一つの理由としては、浜松科学館には専用駐車場がなく、近辺の有料駐車場は値段が高いことが挙げられる。最も海岸に近い南区では、ある程度同種の教室を計画実施しているようであるが、すり合わせて、同区と協力しあえば集客もしやすかった可能性がある。市や区の広報での呼びかけ（時間的に数か月前に掲載依頼が要る）や地元自治会の協力が可能なら効果的かもしれない。
- ② 参加申し込み手段としてはビラに示すFAX、メール以外に、可能なら科学館での直の申し込みや、吉田への携帯電話の申し込みなど容易な手段も考える必要がある。
- ③ 地震対応として家具固定など話したが、実際の地震で家具がどれくらい移動するか、その恐ろしさをDVDで示すことが望ましい。
- ④ 時間的に最終回は3時半～5時としたが、児童・親子とも帰宅時間上、やや遅すぎ、3時～4時半が望ましかった。

### 4. 今後の方針（私見）

集客が最大の問題であり、自治体との協業、駐車場がある図書館の利用などを考慮して、半年に一回程度、中部4県で継続実施を検討する。費用は浜松地域では「浜松RAIN房」が使えるが、他の地域の場合は技術士会による一人1万円（交通費込）提供の方法を使うにしても、その他の経費のねん出方法を探る必要がある。

以上